



発行所  
曹洞宗青年会  
〒105 東京都港区芝  
2-5-2 曹洞宗宗務所内  
発行責任者 神野哲州  
TEL.03-454-5419



全国曹洞宗青年会  
会長 神野哲州

# 謹賀新年

登り龍の辰年に、末広がりの88が加わったおめでたい年回りに、これまで以上の飛躍を期して、皆様の一層のご活躍とご健勝を心から祈念致します。

昨年は大変お世話になりました。今年も宗門布教の第一線を担うべく青年会活動に不惜身命全力を傾注いたす覚悟ですので何卒宜しくご協力の程お願い申し上げます。

昭和六十三年 元旦

合掌

青年宗侶のエネルギーを結集しよう  
社会的価値ある活動をしよう  
青年宗侶の自覚を促そう  
地域における活動の連携を深めよう

## 活動の展開にあたり

全曹青が全国各地で開催されていた「神の集い運動」に集う僧侶を中心に結成されたのは昭和五十年十一月十六日のことでした。以来、今期で第七期十四年目を迎えております。会員諸兄の中には結成当初よりこの会に参加され、なお、活発に活動されている方も少なくはありませんが、時の流れとともに結成時を知らぬ会員が大多数となつてきました。また、組織的な大変革(団体加入)をおえた現在、宗門の青年会として新たな方向性を提示せねばならなくなつてきているのがこの全曹青であります。

全曹青の結成意義についてはすでに充分に討議されていることでもあります。その結論は活動テーマとして表された、「大衆教化の推進を求めて」であります。即ち青年僧侶に対社会的な活動展開を求めたものであります。

宗門には大寺院もありません。佛山の寺院もありません。青年僧の多くが寺院出身となつた今日、出家得道の教義に矛盾を感じることも多くなくなりました。また、社会変化とともに僧侶の地位は低下し、ともすれば文化財保護係と見られぬ面もあります。このままではいくばくも宗教が素晴らしい教えと高唱されても僧侶自身が崩壊しかねません。今日、宗門寺院で後継者に悩む寺院は三十三パーセントという現状があります。我々はやむなく後継者となつたのでしようか。また、この思いを次代に背負わせたいのです。青年会活動は新寺院活動の模索であり、また、曹青に集う青年僧侶は寺院形態に布教化を挙げ、社会にあっては活動をテーマとしました。この活動に僧侶としての意義を十分に発揮し、次代を育てていこうとするのが曹青であります。

次 年頭挨拶……………1・2  
「なら・シルクロード博」  
千僧法要趣意書……………4・5  
我が曹青を語る……………6  
淫楽会によつて……………7

また、団体加入の方針は多くの曹青で理解されるようになりまして、この今一度確認しておかねばならないのは、単に全曹青に加入し易くなったことではなく、全国の活動する青年僧が全曹青に結集し何をやるかということであり、更に宗門の青年会という意義です。団体加入は全曹青会員の飛躍的に増加させました。今まで地域の曹青には加入しても全曹青には加入しなかつた会員も自動的に全曹青会員となりました。しかし、考えてみれば、宗門の青年僧に宗門僧としての自覚を前提に自主的に全曹青に加入したく事がないのが現実であります。全曹青執行部は曹洞宗青年会であるから成り得た事例を重ね、会員の参加意識の中に宗門青年僧侶としての自覚と誇りを高めるべく努力せねばならぬと考えています。

宗門の青年会(こと)については宗務当局に特にお願いしたいと思つています。それは、登録会員数四千名になつてくる宗門の最大の教化活動団体の指導育成と活用であります。

宗門は様々な活動を展開しています。どれも意義ある布教活動であります。統一性が稀薄に思われます。それは統一的な対社会的活動が展開されないことにあります。何となれば、かつての難民救済には多くの寺院が協力した実績があります。

年度当初に布教方針が明示されますが、全曹青に指示されたことにはないように思います。僧侶として熟知すべき義務はありますが、展開を遂げる青年僧の活用は十分に意義があるように思われます。

宗門僧侶の意欲に燃える曹青活動を宗門でもつと育成していただきたいと思つています。

### 『なら・シルクロード博』にむけて

#### I 花まりり千僧法要

63・4・26(火)奈良 東大寺  
聖武天皇によって日本仏教発祥の証として催された千僧供養。現代僧侶は仏教の新しい展開を願つてこの法要を再現します。ご参加下さい。

#### II 花まりりウィーク

63・5・23(日)4・8・12  
奈良 元興寺 春日野会堂  
25・26・27に仏教劇を予定しています。梅花流 全国奉詠大会(名古屋)からの移動もご検討下さい。

#### III 坐・精進料理

63・10・11・23 / 奈良 元興寺  
国宝の権室で坐禅の会を開きます。

#### ●問合せ先

全曹青なら 事務局伊藤道宣  
☎〇五六二二三三二〇四四  
詳しくは曹青通信・宗報・チラシで御連絡下さい。

#### 全国曹洞宗青年会 定時総会開催へ

昭和六十三年四月二十六日、東大寺において新たな結果を行ったその日、奈良ホテルにて引き続き、昭和六十三年定期総会を開催する予定である。

# 謹賀新年

昭和六十三年 元旦

## 全国曹洞宗青年会

会長 神野 哲州 (愛知第一)

副会長 中野 宣明 (愛媛)

副会長 佐藤 孝一 (新潟第四)

副会長 我妻 耕道 (宮城)

事務局長 村松 延行 (静岡第三)

### 理事

関東 吉村 明仁 (千葉)

近畿 原田 隆文 (大阪)

中国 原田 秀道 (山口)

九州 仙井 秀道 (四国)

北信越 佐藤 孝一 (新潟第四)

東北 小 木 祐 興 (岩手)

尼僧団 井 川 悦道 (東京)

### 総合企画委員会

委員長 小原 宜弘 (茨城)

副委員長 渡津 法晃 (愛知第二)

副委員長 堀部 明宏 (愛知第三)

副委員長 長谷川 寛孝 (静岡第三)

副委員長 名村 直高 (愛知第三)

副委員長 鯨岡 宏智 (茨城)

副委員長 島田 袋禅 (愛知第一)

### 事業委員会

委員長 川村 昭光 (宮城)

副委員長 吉川 俊雄 (山口)

鈴木 裕典 (愛知第一)

高瀬 基房 (奈良)

富田 通玄 (四国)

矢野 靖彦 (佐賀)

### 研修委員会

委員長 桂川 道雄 (滋賀)

副委員長 稲垣 智正 (福島)

天利 俊介 (神奈川第二)

河村 英樹 (三重第一)

用元 一雄 (広島)

福村 俊弘 (四国)

甲斐 義康 (宮崎)

### 広報委員会

委員長 谷本 俊昭 (岩手)

副委員長 鈴木 永一 (埼玉第二)

日山 茂雄 (三重第一)

尾谷 茂樹 (京都)

藤原 玄聖 (島根第二)

清水 昭信 (四国)

村田 和元 (長崎第一)

伊藤 良一 (山形第二)

### 組織委員会

委員長 小島 泰道 (岐阜)

副委員長 山本 定満 (鹿児島)

林 光雄 (山梨)

木南 広峰 (静岡志太)

丹治 真一 (岐阜)

鎌原 泰彦 (大阪)

斉藤 周三 (島根第一)

門脇 一光 (四国)

平清水 公宣 (山形第一)

事務局長次長 伊藤 道宣 (愛知第三)

庶務 乙川 良介 (新潟第四)

会計 木下 光章 (京都)

監査員 木村 誠治 (千葉)

新美 忍雄 (愛知第三)

顧問 吉岡 棟憲 (福島)

評議員 松田 宏道 (神奈川第二)

矢光 雪敵 (埼玉第一)

実浄 文彦 (埼玉第二)

渡辺 啓司 (群馬)

笠島 道宗 (茨城)

武長 英俊 (千葉)

水原 康道 (山梨)

服部 秀世 (静岡中野)

山田 恒敏 (静岡志太)

矢部 磐山 (静岡第三)

梅村 正則 (静岡第四)

柿本 大真 (愛知第一)

伊藤 章寛 (愛知第二)

石神 俊龍 (愛知第三)

時田 泰俊 (岐阜)

三尻 良久 (三重第一)

井家 正雄 (滋賀)

田村 利昭 (大阪)

富田 基房 (奈良)

祐川 猶善 (岡山)

清木 純祥 (広島)

瀬田 光範 (鳥取)

萩野 泰道 (島根第二)

村上 正光 (島根第二)

栗田 久利 (大分)

寺田 泰徳 (長崎第一)

三浦 祥善 (佐賀)

甲斐 義広 (宮崎)

野口 良雄 (鹿児島)

野口 修一 (新潟)

大海 徳栄 (福島)

村上 修一 (新潟)

伊達 広三 (宮城)

番沢 浩全 (岩手)

上田 祥悦 (青森)

細谷 邦憲 (山形第一)

越中谷 浩二 (山形第二)

柳川 恒二 (秋田)

渡辺 文英 (北海道有志)

本年も一層のご協力をお願い申し上げます

# 「'88なら・シルクロード博」 特別委員会

- 委員長 西野正行(京都)
- 副委員長 原田隆文(大阪)
- 副委員長 河村松雄(奈良)
- 事務局長 富田基房(奈良)
- 会 計 村田和彦(京都)
- 三好良久(滋賀)
- 奥谷良晃(滋賀)
- 加藤貴昭(京都)
- 岡野聖弘(京都)
- 渡辺益道(京都)
- 伊東和行(大阪)
- 中村利昭(大阪)
- 浅井真澄(奈良)
- 丸子孝法(奈良)
- 酒井秀瑞(和歌山)
- 丹羽達宗(和歌山)

## 全国曹洞宗青年会

# 「なら・シルクロード博」

## 行事日程

### 一、千僧法要

時 昭和六十三年四月二十六日(火)

会場 奈良東大寺

主催 全日本仏教育年会

(企画・全国曹洞宗青年会、南都二六会)

内容 散華行道 法要 宣言

集合 奈良公園 荒池園地

千二百余年前、東大寺に仏教弘布に燃える千僧が集まりました。

昭和の僧は、先徳を慕い、仏教興隆を願ってこの法要を再現し、仏教が真に人類の福祉・平和に寄与するため新たな教化活動の展開を全世界に宣言したいと思えます。

### 二、花まつりウィーク

時 昭和六十三年五月二十三日(月) (旧暦四月八日)

より同二十七日(土)まで

会場 奈良市 元興寺

なら・シルクロード博 春日野会場

内容 灌仏会(元興寺)

仏教劇上演(春日野会場)

\*春日野会場は

二十五日・二十七日

### 三、坐・精進料理

時 昭和六十三年十月一日より同二十三日まで

会場 元興寺極楽坊

内容 坐禅 閉法 精進料理

予約制 一日 百名まで

昼食を中心にした時間程度

会費 一名 五〇〇円

\*会場の元興寺極楽坊は、僧堂の原型といわれる理室(圍坐)を有しています。今回、特別使用許可をいただき僧堂生活から精進料理を通して閉法場を設けます。

\*「なら・シルクロード博」企画問い合わせ事務局

全曹青 事務局次長 伊藤道宣

電話 〇五六二(三三)二〇四四

BS観光 大阪営業所 担当大島

電話 〇六(四四四)二二二二



# 僧 法 要

## 書

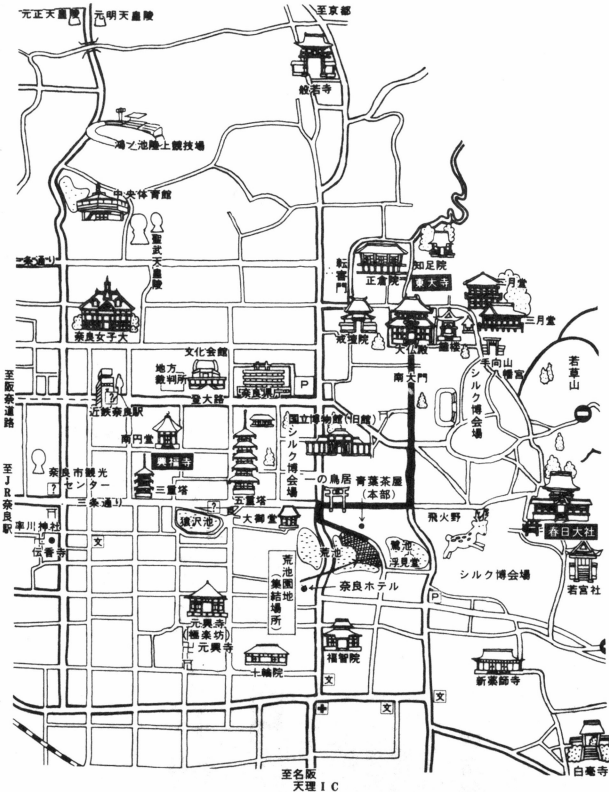
日 時：昭和63年4月26日（火曜日）  
正午～14:30 雨天決行

会 場：奈良・東大寺大仏殿

集結場所：奈良公園荒池園地

法要内容：散華行道・釈迦牟尼仏慶讃音楽法要

〔散華行道の道順〕



仏法興隆誓願

### 花まつり千僧法要の趣旨

仏教伝来以来一四〇〇年、仏教は日本人の心の支えとして多くの文化・思想を育んできました。また仏教は多くの民衆の中に溶け込み、信仰として人々に生きる力を与えてきました。しかしながら今日、日本の社会構造は大きく変わり、仏教の社会における意義も変わりつつあります。物質的豊かさを誇る一方で、生への不安と混乱にさいなまれる人々が増えつつあるように思われます。

かつて聖武天皇は、単に人々の幸福と安寧ばかりでなく、動物も植物も共に栄えることを願われて、毘盧遮那仏の造像を発意され、東大寺に千僧、万僧を招聘してその開眼供養会を催されました。このたび、われわれ仏弟子たちは聖武天皇の故事を思い起こし、仏法の弘通に情熱を傾けた先徳たちを追慕し、宗派を超えて千僧相集うことにしました。

社・世界の平和に寄与せんことを毘盧遮那仏のご宝前に誓願したいと思えます。

### 法要内容について

- 一、散華行道 12時～
  - ・正午に荒池園地を出発し、春日大社の「の鳥居」より行道を開始する。
  - ・一、〇〇〇人の僧侶に山伏の法螺貝、楽人、稚児、詠歌隊を加える。
  - ・行列の間に一頭の子ソウを配し、背中にお釈迦様の誕生仏を頂く。
  - ・ラタタも数頭行列に加える。
  - ・東大寺大仏殿に向い約一・五kmの距離を散華しながら行道する。
  - ・東大寺南大門をくぐり、中門より毘盧遮那仏のご宝前に至る。
- 二、釈迦牟尼仏慶讃音楽法要（東大寺大仏殿）13時30分～
  - ・合唱団による仏教讃歌が流れるなか、大仏殿の前にお釈迦様の誕生仏をまつり、一、〇〇〇人の僧が中門の入り口で受け取った花一輪をそれぞれお釈迦様にお供える。（献華）
  - ・三帰依文を唱和し、一、〇〇〇僧が五体投地の礼拝をする。
  - ・誓願文奉読
  - ・南無釈迦牟尼仏 唱和・奉読
  - ・世界平和を願う鳩を放つ
  - ・仏教讃歌が流れるなか中門より退場 14時30分

### タイムスケジュール

- 昭和63年4月26日（火曜日）
- 10時 受付開始（荒池園地）
  - 10時 更衣・法衣着用
  - 12時 集合・整列・点呼
  - 12時20分 散華行道開始
  - 13時30分 東大寺大仏殿（讃歌・献華・礼拝・誓願文・宝号・奉読放生）
  - 14時30分 退場
  - 16時30分 記念集会（奈良ホテル）

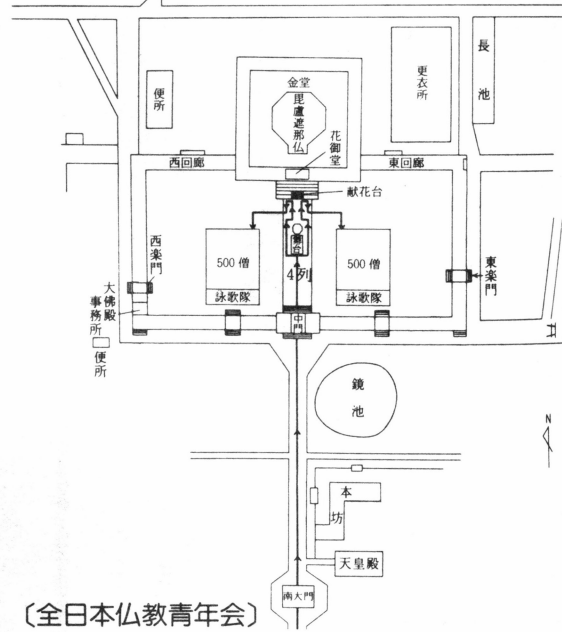


# 千 企

## 仏法興隆誓願 花まつり

主催：全日本仏教青年会  
後援：全日本仏教会 他

(東大寺金堂・中門・回廊平面図)



(全日本仏教青年会)

### 加盟団体

No	全日本仏教青年会加盟団体
1	埼玉県仏教青年会
2	神奈川県仏教青年会
3	大阪府仏教青年会
4	社団法人 神戸JBCクラブ
5	神戸市仏教青年連合会
6	東京ブディストクラブ
7	東京仏教青年会 (TYBA)
8	天台宗仏教青年連盟
9	真言宗智山青年連合会
10	真言宗豊山派仏教青年会
11	浄土真宗本願寺派東京教区青年僧侶協議会
12	全真言宗青年連盟
13	全国曹洞宗青年会
14	全国日蓮宗青年会
15	全国浄土宗青年会
16	静岡市仏教青年会
17	高知県仏教青年会
18	雲雲寺青年教師研究会 (真言)
19	前橋仏教青年会
20	茨城県仏教青年会
21	長野県仏教青年連盟
22	山形県仏教青年会
23	金沢市仏教青年会

### 本部役員名簿

No	加盟団体	氏名	寺院名
1	理事長	中山 清田	普光寺
2	副理事長	田中 光成	養蓮寺
3	副理事長	城ヶ辻 秀樹	極楽寺
4	副理事長	本川 英暎	西方寺
5	副理事長	和田 大雅	宝樹院
6	副理事長	小林 秀樹	真藏院
7	副理事長	松本 文雄	常楽寺
8	事務局長	小林 修玉	放光寺
9	次長	本間 照常	真弘寺
10	同	河野 亮山	東泉寺
11	同	真野 竜人	天光院
12	同	門屋 信誓	三光院
13	会計	吉山 智照	東暎寺
14	同	羽生 裕彦	教音寺
15	監事	正本 兼光	長寿院
16	同	白川 元昭	迎迎寺

事務局 〒365 鴻巣市糠田1439 放光寺内

TEL (0485) 96-0439

### 集結場所と 設営について

- ・奈良公園内の一画で荒池に面し、東に若草山を望み西には興福寺の五重塔や奈良ホテルを見渡す風光明媚な荒池園地(約一〇、〇〇㎡)に集結する。
- ・テントを張り、雨天の場合をも想定する。
- ・受付、手荷物預かり所、移動式トイレ、喫煙所、ごみ入れ等を設け、またそれぞれの案内表示板を各所に立てる。
- ・雨天の場合、受付でビニールカッパを用意。

### 参加方法

当日は「ならシルクロード博覧会」開催中のため、交通混雑が予想されます。出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

(例えば、黒衣・木蘭など)

参加者ご芳名をタイムカプセルに収め、永久保存しますので、ハガキまたは、フлакシミリで住所・氏名・年齢を明記の上、事前に下記事務局までお送り下さい。

花まつり千僧法要事務局  
〒630 奈良市十輪院町27 十輪院内  
TEL 〇七四二二六六三三  
FAX 〇七四二二六六三六

### 集結場所への 交通機関について

当日は「ならシルクロード博覧会」開催中のため、交通混雑が予想されます。出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

近鉄奈良駅より徒歩8分  
JR奈良駅より乗降バス停下車徒歩3分

集結場所までは、貸切バス、タクシー、乗用車は進入できませんが、付近に駐車場は全くありません。あらかじめご了承ください。

### 記念集会 御案内

花まつり千僧法要終了後、奈良ホテルで、なごやかな交歓会を予定しています。是非ご参加下さい。

日時 昭和63年4月26日  
午後4時30分

会場 奈良ホテル 大和の間  
TEL 〇七四二二六三三〇〇

★ハガキ等にて、ご参加の旨をお書き添えください。

### 花まつり・ 千僧法要についての 問い合わせ先

南部二六会(なんとにろくかい)事務局  
〒630 奈良市十輪院町27 十輪院内  
TEL 〇七四二二六六三三  
FAX 〇七四二二六六三六

全国曹洞宗青年会  
〒477 愛知県東海市加木屋町西御門23 普濟寺内  
TEL 〇五六一三三三〇四四  
FAX 〇五六一三三三二二八五

当日本部 旅館 青葉茶屋  
〒630 奈良市高畑山ノ上169 (奈良公園浅茅ヶ原)  
TEL 〇七四二二二二一九一七

# 我が曹青を語る (11)

静岡中部青年会

会長 服部秀世

## 全曹青へ

### 団体加盟決定!

## 涅槃会によせて

# 「花草餅とヤシヨウマ」

二月十五日、本堂に涅槃図をお掛けし、てさき、その前にみんなお供物をみなさまのお寺では供えられるのでしょうか、日本各地には、それぞれのお供物があり、お菓と呼ばれるあれや、いり豆、

小粒の団子なども有名ですが、ここでは、私が住む岐阜県恵那地方の花草餅と彌果長野のヤシヨウマを御紹介したいと思います。花草餅とはいいますが、餅米を蒸して

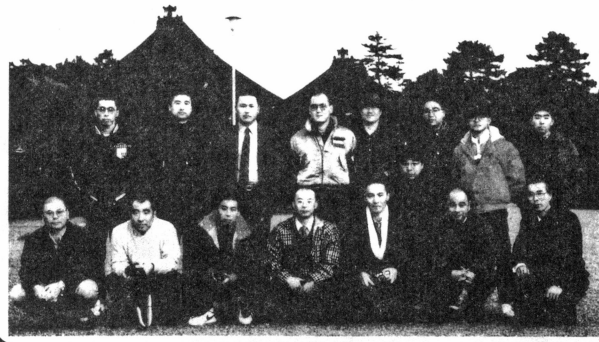
搗いたいわゆる餅ではなく、米の粉を原料としたものです。普通、米の粉を練ったものは団子と呼びますが、団子とは丸い形状という外来語でしょうか、ここでは丸いもの以外は粉餅といえます。

恵那市内のA寺では、以前はこの花草餅のために、米の托鉢に出ました。涅槃会の二日前、寺の世話人が十五、六人庫裏に集まってお餅を作ります。米の粉を熱湯で固目に練ります。それを火

が通りやすいように、大判形指で平たくします。これを蒸籠で蒸し上げ、木の臼に入れ、杵でつきます。つき上げる直前、色粉を入れて色をつけます。色は、赤、黄、緑、青に色粉を入れない白の五

三好政子  
(岐阜県恵那郡福岡町高山 在住)

当青年会は静岡市と清水市の青年僧の集まり(四十歳迄)で、部発足三十五年という長い伝統の中で、すでに二世会員の時代に入っています。請先輩老師方が築いてこられたその足跡に対して、部員一同敬意の念をいだくと共に、その意志を継承すべくユニークなアイデアと行動力をもって社会教化、相互の親睦、自己の研鑽に務めております。  
主年間行事は、緑蔭陣のついで(二十三回)、親子禅のついで(八回)、禅をきく会イン静岡、ボランティア会協力衣類収集、托鉢、臘八接心の他、市仏書との協力で辻説法、仏事テレホン相談、花まつり法要、慰霊法要等への行事にも参加しています。毎月の例会では、法務講座(漢語等)と一般講座(税務からゲーム手品等)を隔月で研修していますが、四月に不老閣下を拝請して一日お授戒会を間近にひかえ、目下、竹へらづくり、血脈祈り、など準備に大わらわの状態です。  
※昨年の禅のついで好評を博した「禅寺で大きくシヤズの夕べ」に出演したフルート奏者のルー・タバキンは、今年も来日の予定ですが、もし各地の禅のついでで招聘の企画があれば、ご連絡下さい。ご紹介をいたします。



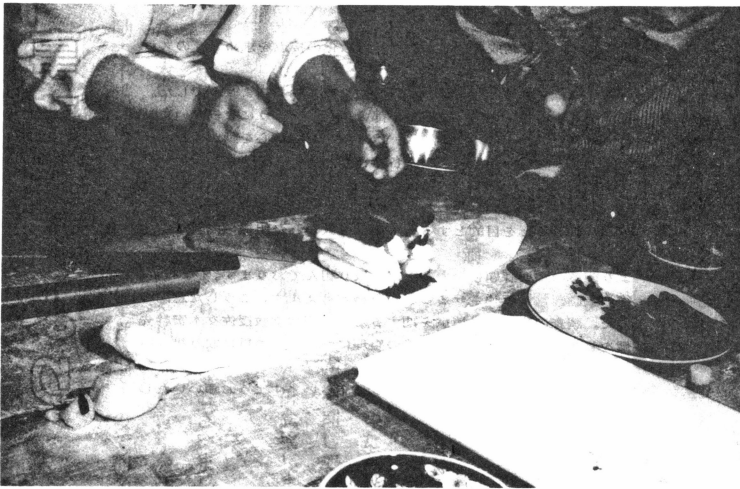
首都圏 近畿圏 寺院墓地の **新設 増設 改葬** お任せください。

新しい祈りの文化を創造する **メモリアルアートの大野屋**  
 本社/〒187東京都小平市美園町3-2-5 大野屋ビル ☎0423-44-4111代

寺院墓地のご相談受付は

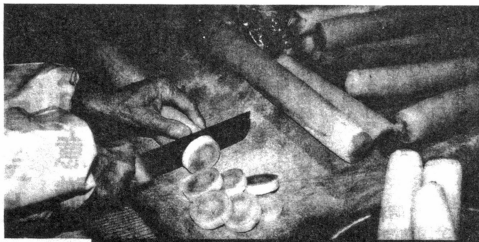
- 大 阪 支 店 ☎06-344-7777代
- 横 浜 支 店 ☎045-312-4111代
- 法 谷 支 店 ☎03-486-7777代
- 浦 和 支 店 ☎0488-32-4111代
- 相 模 原 支 店 ☎0427-54-4111代
- 船 橋 支 店 ☎0474-24-7111代
- メモリアルカルチャーセンター ☎03-361-4111代

◆墓地の企画・造成をはじめ、開発・経営許可の申請手続きの代行、資金のご相談、永代使用申込者(檀家)の募集受付・管理業務、建築設計・施工請負など、すべてお任せください。  
 ◆納骨堂、無縁供養塔の建立もお受けしております。  
 ◆寺院仏具、檀家の方の仏壇・位牌のご注文を承ります。  
 —お気軽にご相談ください—

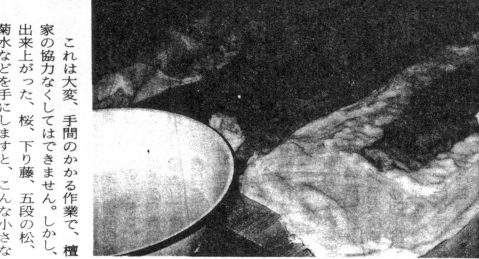


色です。  
し板の上に濡れ布巾を広げ、この色餅を三色ほど順々にとり、伸ばします。そして巻き寿司の要領で巻き込んで、一本の棒状の餅とします。色餅の配色、配置によって、でき上りの模様も同心円のもの、渦巻きのもの、不定形のものなどいろいろ違ってきます。  
これを大きな蓋で覆って、ゴロゴロ押すと、均等の太さの花草餅がでえ上ります。翌日、固くなった棒状の餅を一センチ弱の厚さに切り、涅槃図の前にお供えし

涅槃会当日は、法要終了後、役員が自分の分拒区域の檀家に花草餅を配ります。近辺の字どもたちは、直接、お寺へお参りして、お餅をいたいて帰ります。この餅は固いので、焼いて、砂糖のようなや五平餅のタレをつけて食べます。  
これと同じものを長野県では、花草餅ともヤシヨウマとも呼びます。ヤシヨウマは「鵝」で、米の粉を練ったものを片手で握った形が、骨張った馬の背中に似ているからです。この名からすると、この餅の本来は、白いのではなく、黒砂糖を入れた茶色い粉餅ではなかったでしょう。



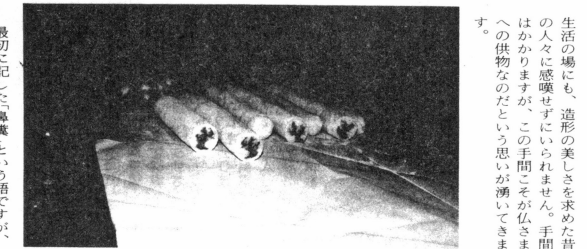
黒砂糖が庶民の口に入るようになったのは、江戸時代です。石臼の目立てが村の隅々まで入り込むようになって、製粉が楽になったのも、この時代です。この頃から作られ始めたのでしょうか。農文協出版の「聞き書・長野の食事」によれば、長野県各地でヤシヨウマを作ります。一番、素材な形は粉を湯で練り、羊かん程の棒状に伸ばし、その上部を太い葉はしてはさんで、山形をなしたものです。  
しかし、現在では、切り口に美しい花模様がある丸い餅のヤシヨウマも作られています。伊那市内のB寺の例を次に述べます。  
この寺で使用している粉は洗米を二度挽きしたもので、実にも細かく、しつとりとしたものです。これを湯で練り、小判形にまとめると、一度、大鍋で茹で上げます。それをこね、鉢に入れ、力をこめてよく練り上げます。こうすると、いわゆる掲ぎ餅のようになめらかな餅肌となります。これを、いろいろな色に染め、写真のように金太郎餡作りの要領で組み込んでいきます。



これは大変、手間のかかる作業で、家の協力がなくてはできません。しかし、出来上がった、桜、下り藤、五段の松、菊水などを手にしますと、こんな小さな

「ボタン」の花形を例にとりまると、初めに、側となる白い生地をの餅のよう細長くのします。この上に、葉となる刻みを入れた緑色の餅を直角に二組のせまします。その間には筒状にまとめた白い餅を空用として置きます。それから、餅状に伸ばした紅餅を同じ長さで切り揃え、花びらとなるよう、十八本丸く積み上げます。その中腹には花蕊となる黄色の棒も組み入れておきます。最後に、白生地の上に積まれた組みものを、外側の白生地で包みます。直径十五センチ位になります。これを気長に、ゴロゴロ転がします。長く回したら、真中に糸をぐるぐる回してかけ、直徑五センチ位まで細くします。切り口を見ると、ちやんとボタンの花が浮き出しています。

最初に記した鼻糞という言葉ですが、供物にふさわしからぬ名前だと思えます。喜多村信節著「遊覧交遊」(文政十三年)には、畿内の俗正月の餅花を涅槃会に献つて供物との蓬の餅(たんご)を作りて備ふるはいづれも名付て「はなご」といふは疑ふらくは花の誤なるべし」とあります。しかし、これは「ハナクサ」を「ハナクソ」と聞き誤ったのが、流布したものだろと思われます。  
花草餅を「いただき餅」と呼ぶところもあるようです。「広辞苑」によれば「糕(しんご)を平たく丸めて、中央をくぼめ、あずき餡をのせたもので灌仏会の供物である」とあります。花祭に作る草餅だから、花草餅とよんだのでしょうか。マスコミもない時代に、口伝えに、少しずつ、長い時間をかけて伝わった風習です。このように少しずつ、名称、時がかわってきたのでしょうか？  
御存知の方がおありでしたら、花草餅、ヤシヨウマについて、お教え下さい。



生活の場にも、造形の美しさを求めた昔の人々に感嘆せざるにあらざらん。手間はかかりますが、この手間こそが仏さまへの供物なのだと思いが湧いてきます。

**お経ビデオ**

**生活にひろがるやすらぎの世界**

日常勤行シリーズII

**曹洞宗**

その教えとお勤めの作法

第一部 曹洞宗日常勤行式  
お経の唱え方と作法のチェック

第二部 お仏壇のまつり方とお勤めの作法  
仏具の意味と使用作法  
お線香の作法・経本の持ち方・合掌・礼拝の仕方・数珠の持ち方・座法・木魚・小さんの打ち方 他

第三部 道元禪師のご生涯とその教え

●小社へ直接ご注文の場合は、ご希望の商品名を(βかVHSかα)はつきりお書きのうえ下記宛現金書留にてお申し込み下さい。確認後、商品をお送りします。(郵送料は小社にて負担します)  
〒110 東京都台東区台東4-27-5 秀和興産町ビル  
東芝EMI(株)マーケティングセンター  
TEL(03)837-0634

制作・発売 東芝EMI株式会社  
●ご注文は、お近くのレコード店、ビデオ取扱店へどうぞ。

全国曹洞宗  
青年会の監修の  
もとに完成!!

●Bete hi-fi/カラ-49分  
TT60-3028FI ¥6,000

●VHS hi-fi/カラ-49分  
TT60-3028HI ¥6,000

全曹青会員の皆様には横務に各曹青の活動にご活躍のことと拝察いたします。今期執行部も早十ヶ月を過ぎ、歴代執行部諸師のご苦勞をかみしめながらも会務を進めることができ、ご理解ご協力に深く感謝致しております。

さて、全曹青は「禅の集い」を興し育てた諸先輩の呼びかけに呼応して結成され、以来、「大衆教化の接点を求めて」のローガンを基に活動を展開してきました。

一方、青年宗侶の活動が今後の宗門を決定するとまでいわれながらも、全国組織の拡充は平坦な道ではありませんでした。個人加入で発足した全曹青は発足十年を経、各地に曹青が組織されるにしたい組織間の不都合を生ずるようになっていました。この状況下で第六期執行部の大英断により実行された組織革命ともいえる「団体加入」は未加入会員の心を動かし、今日では、四十二団体、三千六百名の登録会員を要する大集団となっています。これにより、各曹青間の連携と交流を一層深くできる基礎が確立されたという事です。

しかし、会則第三条の「相互の連携を計り、青年に賦えられた知と力を結集し、つねに開かれた世界への活動を通して、宗旨に根ざした人間の育成を図り、もって健全な社会の形成に寄与することを目的とする」為には拡大された組織の内容を充実させることこそ最も重要な課題であります。

今期、組織委員会では未加入団体の加入啓蒙活動はもとより、この重要課題に全力を上げて取り組んでおります。すなわち、会員諸兄の声、各地の曹青会の意見等を的確に把握し、今後の企画運営に反映させることが急務と考えます。こうした意図の基に、全会員を対象にアンケート調査をすることに致しました。調査の実施には慎重を期するため駒沢大学教授佐々木宏幹先生のご指導を仰ぎ、評議員各位のご意見を拝聴しながら準備をまいりました。調査後の整理についても慎重に取り扱う所存です。何卒ご協力の程お願い申し上げます。

尚、用紙はすでに個人宛あるいは各団体宛に発送いたしておりますのでお受け取りの上、返信下さいませようお願いいたします。

- ・返信は2月15日迄に、お願い致します。
- ・返信の郵便料金は(受取人)が支払います。切手は不要です。
- ・調査後皆様の(調査票)は焼却させていただきます。

# 事務局だより

## 組織委員会より 会員意識調査の協力をお願い!



### ダライラマ法王をダラムサラに訪ねる旅 12日間

デリー/ダラムサラ/ベナレス/ブダガヤ/ラジギール/パトナ/デリー

昭和63年4月27日~5月8日 東京・大阪 発着・添乗員同行・全食事付 398,000円

チベットを追われ、活仏として生きるダライラマ14世に接見し、インドに生きるチベットの人人々とふれあうダラムサラへの旅です。

主催 株式会社 ビーエス観光  
大阪 (06)444-2225 広島 (082)244-1033  
東京 (03)563-2691 米子 (0859)33-6456